

シグマ委員会核データ情報／評価専門部会
熱中性子散乱WG 昭和45年度第6回会合議事録

日 時 昭和45年12月14日午後1時～5時20分

場 所 原研東海研第2会議室

出席者 坂本、飯泉、角谷、中原、後藤、関谷、千原、

以上7名

配布資料

1. JAERI-memo 4191(公開) (中原)
2. JAERI-memo 3668(未公開) (中原)

議 長 坂本正誠

議 事

1. 前回議事録確認

訂正追加事項なし。

2. 一般報告

後藤氏より大要次のような報告があつた。飯島氏から電話で聞いたことを伝える。熱中性子WGの責任者を本委員会のメンバーに加える件は今は時期が悪いので来年4月に考慮する。計算費は熱中性子WGには付けないが、個別に申請すれば、計算費を出す。このことは他のWGについても同様である。調査活動は認める。飯島氏の意向としては17日に専門部会の会合があるので、午前中にでもWGの人が集つて相談しておきたいとのことである。

3. 文献調査

坂本氏より大要次のような報告があつた。リストI(年代、著者アルファベット順)ができた(リストIが回覧された)。若干ミスが残つているので修正する。分子に関する論文をButin & Yipの本のref.でチェックしたら約3分の2落ちている。もう少し整理したらリストを配布するので、落ちている文献をチェックして頂きたい。物質別にリストするプログラムは間もなくできる。

• Up to date にするにはどうすればよいか検討中である。出版する形

にまとまるのは年度末になるであろう。8月以降集つた文献はリストして配布した。

4. 今後の方針

- WGの今後の運営方針について活発な討論が行われた
- 主な意見として次のようなものがあつた。
 - 文献調査は軌道に乗つてきたので、続ける。
 - 新しい問題に取組む方向をとりたい。簡単にできることはやりつくされている。
 - 文献調査の過程を通じて研究の現状を適確に把握しておく必要がある。
 - WGの物件の管理はセンターに移管した方がよい、コードもセンターで管理して、外部からの依頼はセンターで処理する。
 - 完全網羅的なファイルは作ることはしない。ファイルした方がよいものは個別に考慮する必要がある。
 - 計算費はゼロでもよいが、原研の計算機を外部の人も使えるように旅費も含めて配慮しておく必要がある。
 - センターの業務内容を明確にして貰いたい。コードの管理はどこがやるのか？ファイル、ファイルというが、ファイルとしてどういうものを考へているのか？不明確のまゝ議論がなされている。
 - コードは本来はセンターが管理すべきものである。管理ということはコードを up to date に使用できる状態にしておき、外部からのサービス依頼に応えられる態勢にしておくことである。
 - ファイルの概念を明確にしておく必要がある。
 - ENDFと同程度以下のものは作つても意味がない。従つて完全網羅的なファイルは作ろうと思えば作れるが、意味がない。ENDFと比較して優れているという自信のあるものだけファイルしていつたらどうか。
 - ファイルに入れたデータに関してはその信頼性を裏づける JAERI-me-mo を必ず出すようにする。
 - 作業自体は各個人の研究室サイドの仕事となる。たゞその研究成果の所産の一つとしてファイルに入れるデータを出しておく。

討論の結果をまとめると次のようになる。

- 1) 文献調査を行う。
- 2) 調査した文献の内容の紹介、情報交換を行う。
- 3) 物件はセンターに移管するようとする。管理・サービスもセンターに移管するようとする。
- 4) ファイルは網羅的なものはつくるないが、個別の研究成果に基いたものはファイルして行く。
- 5) 原研の計算機を使えるようそのシステムや旅費も含めて配慮して欲しい。

5. 論文紹介

中原氏より液体金属による熱中性子散乱に関する研究報告があつた。

次回予定

日 時 昭和46年1月21日（木）

場 所 原研東京本部